

スポーツと文化		講義	教授 平沢 信康
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220110 12220131 13220135

1. 授業のねらい・概要

今日、世の中には様々なスポーツ競技種目が存在する。世界中の人々がプレーを楽しみ、また地球上の数多くの人々がスポーツを観戦している。本講義では、スポーツの歴史を先史時代や古代より現代まで、人類史的観点から多角的に考察するものである。

とくに文化史の視点から、ときには文化人類学的観点も交えながら、スポーツ史について検討する。テレビや新聞などで報じられる現代のスポーツ・ジャーナリズム情報とは異なり、文明史の視点から世界史的教養を深める講義としての。

2. 授業の進め方

基本的には、講義内容の概要を記したレジュメを G メールで事前配信し、その講義要旨に即して解説する。適宜 PowerPoint を活用してテーマに関する画像をスクリーンに映して紹介しつつ、そのビジュアルな情報を以てレクチャーの発話・文字による理解を補う方法で進める。

よって受講生諸君には、講義要旨を読みつつ、スクリーンにも注視するよう努めてほしい。

3. 授業計画

1. 「スポーツ」とは何か? — 語義と語法	9. 近代フットボールの成立と派生形
2. スポーツの歴史 — その概観と種類 (類別)	10. 球を棒等で打つ競技の誕生と歴史
3. オリンピックの歴史と文化	11. 体操という身体運動文化の近代史
4. 祭典・祝祭とスポーツ	12. 近代球技スポーツの文化史
5. スポーツと宗教	13. 日本における近代スポーツの紹介と導入
6. スポーツと社会階級	14. 近代日本におけるスポーツ文化の普及と発展 — 学生野球の歴史を中心に
7. 体育スポーツ施設の文化史	15. 西欧諸国におけるスポーツクラブという組織文化
8. 足で蹴る球技スポーツの歴史 — フットボールとバスケットボールを中心に	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

資料を pdf 版で事前送信するので、その講義要旨の当該ページを次回講義までに読んで予習 (30 分程度) しておくこと。興味をひかれた情報については、受講者各自が所有するスマホ等で検索し、積極的に確認してもらいたい。

また講義終了後、講義要旨 (レジュメ) の内容を読み返し、気になる事項や人名あるいは地図についてインターネットで検索して、あるいは関連文献で学習を深掘りし、復習 (30 分程度) しておくこと。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

毎回の講義終了後「感想文」を提出してもらう。メールで送信されたその文章に対して、誤字脱字の添削を含めたコメントを付して返却するので、熟読されたい。

優れた感想文の紹介し、あるいは学期末試験について特に注意を喚起すべき事項 (多かった誤答など) 等の講評を G メールで履修者全員に対して配信することでフィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

文化としてのスポーツの創造・発祥や誕生の歴史 (ルーツや創始者を含む) および文化としてのスポーツの国際的な伝播について理解を深め、説明できるようになることをめざす。

歴史のみならず、世界の地理に関する認識・理解も高める。

7. 成績評価の方法・基準

学期末に実施する筆記試験と平常点とを総合して評価する。評点の配分割合は、期末試験（55%）、平常点（45%）とする。

平常点については、各回講義の終了時に記してもらい「感想文」のコメント（質問を含む）の筆記内容および濃淡等で、講義に臨む関心と意欲および理解の程度から評価する。

8. テキスト・参考文献

木村毅『日本スポーツ文化史』ベースボール・マガジン社、1978年

ハイナール・ギルマイスター『テニスの文化史』大修館書店、1993年

寒川恒夫編著『スポーツ文化論』杏林書院、1994年

杉本厚夫『スポーツ文化の変容：多様化と画一化の文化秩序』世界思想社、1995年

鈴木守、山本理人編著『スポーツ文化の現在（いま）』道和書院、2000年

稲垣正浩編著『スポーツ文化の「現在」を探る』叢文社、2002年

井上俊、菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房、2012年

9. 受講上の留意事項

講義中は私語を慎み、居眠りをしないこと。

可能な限り図書館に行って、上記参考文献をはじめとするスポーツ文化（史）の文献に親しむこと。

インターネットでの検索を厭わず、億劫がらずに、こまめに調べる態度と習慣を養うこと。

当該回の講義要旨全体を熟読して、その回のテーマ・内容に沿った感想文を書くこと。代筆は禁止。

コピーは不可。自分の頭で考えたことを、自分らしい文章で表現すること。

単なる決意表明文の類のものは不要。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。